

大山街道トーク&フォーラム ワールドカフェアイデア集

【大山街道沿いの地域の連携や拠点づくり】

- ・地域をつなげることが重要。
- ・人のネットワーク。
- ・団体が人的交流を行い魅力を発信する。
- ・各地区の大山みちとの交流も（戸塚、田村道、平塚、八王子、高尾等）
- ・地域で区切るのではなく、国、県を巻き込む。
- ・国、県を巻き込む。
- ・大山みちの駅（拠点）を設けていく。

【情報技術等を使ったまちづくりノウハウの共有や地域情報の発信】

- ・情報を共有する。
- ・情報拠点を設置し、そこに活動団体の情報やアイデアを集め、他団体は参照できるものを真似する。ただし、大きな組織力が必要。
- ・いろいろな情報チェーンをつくる（食、名所など多面で）。
- ・ツイッター効果。
- ・ツイッターを活用したい。
- ・大山と関係のある道標といった目印をつくる。
- ・大山街道の情報は散在していて初めて訪れる人にはよくわからない。→情報をもっとまとめて楽しくまち歩きできるようにする。歴史的資源をもっと体系づけた方が良い。
- ・ネットを使った PR（若い人への発信）。

【民話・歴史などをまちづくりに活かす】

- ・語り部、民話の発信。
- ・民話を共有財産としてあつかう。
- ・慣習や知識の教育。地域のルーツの伝承。
- ・納め太刀を街道に広めてゆく。
- ・納め太刀をする。歴史を知る。
- ・現代型の大山信仰。信仰＝問題解決ととらえれば、健康・食・教育から広くは日本人のアイデンティティとして大山詣を活かす。
- ・落語「新大山詣」創作。→プロの落語家または大学の落研との関係でつくる。→創作落語コンテストへ応募。

- ・落語サークル・コラボ。→創作、コンテストで応募→PR。
- ・大山街道の落語づくり。命題の落語サークルと連携してネタをもらう。街道→帰り道→行きがない→シナリオをつくれそう。
- ・大山街道という名前が残っていることがすごい。
- ・大山街道検定。
- ・見えるもの、知ることで愛着。

【食文化・名品・B級グルメをつくる】

- ・大山街道の「食」のつながりをアピールする（ex.大山街道バスツアー）。
- ・名物を見出し、街道を食いつなぐ。
- ・豆腐に行き着く食べ歩き。
- ・大山名物、食べ物の発掘。
- ・江戸時代の大山街道で食されていたものの再現。
- ・大山詣でのお弁当は？
- ・歴史にちなんだ食べ歩き。
- ・食（酒含む）→大山街道の各地の名物を決め、広げていく。
- ・大山街道沿道ご当地食べ歩き詣→食べても歩こう大山みち。
- ・食文化の活用。
- ・食べる。
- ・食文化の研究を。
- ・大山と関係ある食文化をつくる。
- ・おいしい食べ物（名物）を各地で開発、または売り込み（ネットを使うと売り込みやすいです。）。
- ・大山は豆腐で有名だが、それぞれの地域で魅力的な食があるはず。
- ・食文化を追求、共通するもの。B級グルメあるいはC級グルメ。豆腐の新しい食べ方をつくりだす。
- ・大山豆腐の他、地域毎の名産、特産品の紹介。
- ・地域毎の名物（食べ物）をつくる。
- ・大山街道を冠にしたもの（和菓子、洋菓子）。

【雨降り信仰を自然の大切さやエコととらえたまちづくり】

- ・現在の雨が欲しいとき→「農」の大切さや「水」の大切さを伝える。
- ・雨降り信仰の利用（雨というものを通して子どもたちに水の大切さを知ってもらい新しい大山街道の見方になるのではないか）
- ・大山の雨降りを経済の視点でとらえていく。雨の大切さを子どもたちに伝える。
- ・大山水運びレース。

- ・大山水運びレース→沿道学校の運動会の新演目（大人の場合は酒レース）。沿道格好に共通ルールを設ける。沿道学校の決勝大会を開催。子どもたちに広がる。
- ・目で見て大山が印象づけられるように。
- ・大山水運びレース。

【子どもに大山街道を伝える、そして子どもの交流から大人の交流へ】

- ・子どもを中心にとらえ、授業や写生、サッカー等を通して大人になり、地域の誇りを。
- ・子どもの教育（子どもに大山街道というものを知ってもらい、自分たちのまちだけでなく「街道」という世界につながる道を知ってもらい、好きになってもらえるのではないか。子どもの交流によって大人の交流にもつながっていく。
- ・子どもや新しい住民に土地への愛着を伝えていく。まずは紙芝居のような楽しい教材をたくさんつくる。
- ・地域の子どもたちに大山街道を伝える。
- ・地域の子どもたちに大山街道の歴史を知ってもらう。
- ・合宿で子どもたち（親も）の参加
- ・子どもたちの興味のあることを付加価値（大山道+ α ）としてつける。
- ・各地域の子どもたちと伊勢原（大山）との交流を進める（合宿で宿坊に泊まる）。
- ・大山で合宿（大人も巻き込む）。

【山の景観としての大山や富士山を大切にす、活かす】

- ・大山街道から見える大山と富士山の見え方というものがきっとシルエットとしてつながりを表す絵になるのではないか。
- ・いろいろなところから見る大山の姿→写生、写真。
- ・大山と富士の両方が見えるような景観を保つようにしてほしい（次代の子どもたちへ）。
- ・大山に行く。
- ・大山街道写真コンクール。
- ・「大山に登山しよう」をスローガンにしたい。

【障がい者も参加できるバリアフリーのイベントを】

- ・障がい者参加のイベント。夜間・屋外イベントにおけるトイレの確保など支援の確立。

【歩きやすいまち、歩いて楽しむまちをめざす】

- ・道標を確かめるツアー。まち歩き。

- ・歩けるまちに！
- ・赤坂から歩いてみたい。
- ・歩きやすい道とする。一方通行とする等。
- ・歩きやすい道づくり。
- ・歩ける道にする。大山街道を赤坂から大山まで歩く企画。
- ・街道に一方通行の時間をつくって歩ける道にする。
- ・大山街道を自ら歩く。
- ・歩きやすい道にする。
- ・歩きやすいまち（一方通行にするなど）。
- ・赤坂見附〜大山まで一緒に歩こう。
- ・土日、街道を一方通行にして、人が歩ける道中を設ける（平日は今のままで良い）
→全国的には実施しているところあり。

【大山街道沿いのまちで共通のゆるキャラをつくろう】

- ・用賀のヨッキーに大山街道の歴史が活かされているのは再発見。玉川地域には「たまみせ」という隠れゆるキャラもいる。
- ・ゆるキャラを開発する。
- ・大山街道のキャラクター作成。
- ・共通のゆるキャラ。

【屋台村でにぎわいのある街道にしよう】

- ・屋台村でにぎわう→観光、話題性、集客。
- ・屋台村→空き店舗の有効活用（祭りだけでない）図書館が人を集めているのは空間があるから→付加価値をつけること。楽しみを一時的なものにしない。賑わいの装置をつける。ラーメン等の食屋台。街道に屋台許可。
- ・屋台村をつくる。街道沿いに屋台を許可する（ラーメン、クレープ、たいやき、一杯飲み屋等）。博多に例有り。
- ・屋台村（人が街道に集まる）→人を呼び込み付加価値をつける。

【その他の地域活性化のアイデア】

- ・もみじ狩り
- ・自転車
- ・地域に根付いた活動を。
- ・「賑わい」のあるまちにしたい→「何をにぎわす」のか明確にする（商店街の賑わい、イベント、歴史の広報、活力の推進）
- ・パワースポットとして広げる（ネットを使うと広がりやすい）

- ・私はイヤで手創り市に参加しているので、何かつくることやアート系で協力したいです。
- ・サッカー、コマ回し大会、野球、ユビキタス、宝探し、納太刀等を組み合わせて、大人、子どもともに取り組める企画を考えてみたい。